

（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

会議録

場所	令和 7 年 6 月 23 日（月）13:30～15:40
日時	富士宮市役所 4 階 430 会議室
出席者	委員 小笠原委員（◎）、北垣委員（○）、大高委員、 渡井（一）委員、芦澤委員、諸星委員、高橋委員、井口委員 * 欠席：渡井（正）委員、齋藤委員
	事務局 富士宮教育委員会 石川教育部長 教育部文化課 中野課長、渡邊係長、保竹学芸員、松本学芸員
	オブザーバー （株）丹青社 中尾、外山

内 容

1. 開会

○主催者挨拶

2. 委員紹介

○各委員挨拶

3. 委員長・副委員長指名

事務局 委員長を小笠原氏に、副委員長を北垣氏にお願いしたい。

委員 （仮称）富士宮市立郷土史博物館の基本構想の検討にも携わった。非常によい基本構想が策定されたと考えており、その方向性に沿って、基本計画の検討も進めていければと思う。
本施設整備に関して様々な意見が出ているが、基本計画の検討は淡々と進めたいと思う。委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

4. 議事

（1）（仮称）富士宮市立郷土史博物館の検討経緯

事務局	※資料 1 「（仮称）富士宮市立郷土博物館活動のイメージについて」、資料 2 「これまでの検討経緯」について説明
委員	市内には、静岡県富士山世界遺産センター（以下、「世界遺産センター」とする。）があり、世界遺産「富士山」の構成資産について紹介している。市内にはこの構成資産が多数あり、それらを紹介する施設を市が新たに整備する必要があるのか。 それと、埋蔵文化財センターがあるのに、新博物館と一緒に整備する必要があるのか。
委員	構成資産は地域の歴史の中で捉え直し、富士宮市の郷土史として紹介することができる。 埋蔵文化財センターについては、現在の場所が浸水想定区域のため災害リスクが高く、災害時には資料流出の可能性がある。博物館と一緒に整備することで収蔵品を一括で管理することができ、スムーズな利活用が可能になる。子どもたちが遺物を手に取るような体験も提供しやすくなる。博物館は学校の総合学習の拠点になると考えていて、博物館と教員とが連携する場として、資料保存

	と展示公開、教育と調査研究が一体となることでの相乗効果も期待できる。 世界遺産センターでは、世界遺産という視点で構成資産の重要性を伝えており、郷土史博物館は富士宮市の郷土史のなかで紹介していくのだと考える。
委員	一般市民からしたら、同じ話だと思わないか。
事務局	テーマ展示として、構成資産以外の富士宮市の歴史や文化を積極的に紹介していく想定でいる。 現在、村山浅間神社の社務所をお借りして、神社に伝わる古い資料から当時の地域の人々のくらしを紹介する展示を行っている。 世界遺産センターの常設展示では、市内にある構成資産も紹介されているが、富士宮市の歴史として紹介されているわけではない。そうしたことから世界遺産センターとはすみ分けができていると考えている。
委員	世界遺産センターは県の施設であり、静岡県全体のなかでバランスを考えながら構成資産を紹介している。静岡県側の構成資産 8 つのうち 5 つが富士宮市内にあることから、他の地域の人々からすると、富士宮市にとって非常に大きなチャンスであると思われる。しかし、富士宮市の歴史が十分に紹介されているのかというと、いささか疑問が残る。こうした状況を踏まえると、郷土史博物館では、富士宮市における世界遺産以外の部分を紹介するという考え方もできる。 また、埋蔵文化財センターについてだが、発掘調査によって得られた資料を、実測や復原などの手法で記録保存した後に、展示公開する行政機関である。埋蔵文化財とは国の指定文化財であり、発掘された資料は基本的には国のものである。この発掘業務を国から権限委譲され、代行している機関が埋蔵文化財センターである。 埋蔵文化財センターと郷土史博物館とが一緒に整備される意味合いというのは、資料 1 の 5 ページ目にある常設展示において展示品や遺跡の概要を公開できるという部分での併合になる。埋蔵文化財センターはあくまでも発掘調査を行う行政機関である。その辺りは、市民にも分かりやすく説明しておく必要がある。
委員	世界遺産センターは、市内にあるものを含めた構成資産全体を紹介するための拠点施設である。富士宮市が整備しようとしている郷土史博物館は、富士宮市が宝として後世に繋いでいこうとする文化財を管理し、市民等に紹介していく施設である。外国の方も訪れる世界遺産センターとあわせて、富士宮市の郷土史博物館を訪れることで、富士宮市の魅力を知っていただけるのではないかと。 話は変わるが、大阪・関西万博を見学したが、驚くような新しい展示手法は見当たらなかった。最近リニューアルした博物館は、たいていデジタル展示を導入しているので、展示手法としての目新しさは感じなかった。世界遺産センターでは、デジタル展示を活用して、富士山の概要を伝えるところからスタートしたが、最近は実物資料を通した展示が求められている。 富士宮市では、これまで文化財を管理し、その価値を伝えてきた蓄積がある。ここまで蓄積された情報やノウハウを活用しながら、資料を通して地域の宝を伝える施設というのは地域文化の拠点であり、地域にとっては必ずあるべきだと考える。世界遺産センターでは、富士宮市の構成資産のある各地域の細かな歴史を伝える展示は常設では紹介できない。出前講座についても大人を対象としたものではなく学校を対象とした場合は、学習進度を把握するのは難しいため、内容もかなり限定されてしまう。地域学習の進度に合わせて学びを提供するのは、地域の博物館の大きな役割だと考える。
委員	博物館を運営している立場から言うと、資料保存の観点から展示と収蔵の場所は極力離さない方がよい。 まずは「どうして博物館が必要なのか」という観点で議論するべきだと思う。
委員	街中に整備されれば、地域の発展につながると思う。

委員	博物館は、子どもたちの調べ学習だけでなく、学習に興味を持つきっかけづくりの場として活用できると考えている。富士山学習では地域に密着した課題に取り組んでいるので、世界遺産センターの見学では解決できないことがたくさんある。地域に密着した内容の展示が行われ、それを学芸員が解説してくれる博物館が地域にあれば、子どもたちの学びが深まると思う。 子どもたちにとって、文章だけで理解するのは難しいので、実物資料や映像など具体的な資料を通して学べると、学習効果が高まると思う。 気になる点としては、市域が広いため博物館まで足を運ぶことが難しい地域も出てくる。その場合は、学芸員による出前学習や、オンラインでの学習機会などを提供していただけるとよい。
委員	基本構想の検討時には、学校から配布されているタブレット端末を活用し、市内の子どもたちが平等に、そしてタブレットを開けば、いつでも学習ができるような環境の整備を提案した。ただし、小学校1年生から6年生までが、同じ内容を学ぶというのは無理があるので、学年にあわせた対応なども検討する必要がある。幼い頃に経験したことは、その後の人生にとっても重要な意味を持つ。上質なものに触れ、体験したことは、直接的に活かされなくても、記憶の一つとして大切なものになると思う。 ちなみに、郷土史博物館の整備について、一部から反対意見が出ているのは、博物館像が上手く伝わっていないからではないか。「反対ではないが、市が描いているイメージが見えてこないの賛成と言いがたい」という意見を聞いた。市としてどうしていきたいのか具体が見えてくると、市民の理解も進むと思う。
委員	人口13万人規模の自治体が博物館を持っていないというのは、文化的に問題はないのか。
委員	合併を経て市域が広がっているにもかかわらず、郷土のことを学べる施設がないというのは課題だといえる。
委員	合併の歴史を伝える場も市内にはない。近代史を伝える場が博物館なのか。
委員	近代史を伝えるのが博物館のすべてというわけではない。 市内にどのような歴史的・文化的なモノがあるのか、そういう地域のことを知らずに育ってしまうと、地域への愛着も醸成されない。 とある博物館の来館者を対象に調査を行ったところ、小学5、6年生の時に教科書で見たり、学んだりしたことを強烈に覚えていて、それが博物館を訪れるきっかけの一つになっていることが分かった。実際、博物館には当然親子連れも多いが、一人や友人などと自発的に来館するのは小学5、6年生が多い。それが中学生以降になると、ほとんど訪れなくなる。おそらく部活動や受験勉強などで忙しくなる時期というのも関係しているのかもしれない。小学5、6年生の時に学んだことは一生忘れない傾向にあるので、その時期に地域のことをしっかり学んでおくというのは非常に重要なことだと感じている。
委員	富士宮市では、すべての学校ではないが小学6年生が社会科見学で埋蔵文化財センターを訪問している。小学3年生では、学区内の文化財を見学したり、地域の歴史に詳しい方にお話を聞いたりする機会がある。富士山学習は全小中学校で取り組んでいる。 地域資料「ふじのみや」という副読本があり、中学年は利用機会が多いが、高学年になると利用機会が減っているので、活用方法を検討している。 副読本の内容とリンクした展示を行っている博物館もあるようなので、富士宮市でもそうした取り組みが行われると、子どもたちが地域について学ぶ機会が増えると思う。
委員	大人が読んでも学ぶことが多い、素晴らしい内容の副読本である。
委員	副読本の内容とリンクした博物館があると、よりリアルな学びに繋がる。な

	お、中学生向けの副読本もある。
委員	8 年ほど副読本の監修に携わってきた者として、手前味噌ではあるがすばらしい内容だと自負している。市内の各学校からも好評を得ている。中学生向けと小学生向けとがあり、一年おきに改訂している。 学習指導要領では小学 3 年生から地域の歴史を学ぶことになっているが、富士宮市の副読本は、小学 5、6 年生向けの内容になっている。中学生には、振り返るための資料として活用してもらえている。改訂しながら 40 年近く発行を続けており、富士宮の子どもたちは副読本の世界観で成長していると言っても過言ではない。その世界観を具現化した博物館ができれば、多くの市民の興味に繋がるのではないかな。展示内容を検討する際にも、活用いただきたい。
委員	現代の子どもは、特に長い文章の読解が苦手な傾向にある。副読本と博物館、PC などがうまくリンクすると非常に良いと思う。
（２）策定委員会の進め方（案）	
事務局	※資料 3－1「基本計画項目（案）」、資料 3－2「検討の進め方」について説明
委員	建設費や運営費を比較しながら規模などを検討することはできないのか。
事務局	当然庁内では費用的な部分もふまえながら検討を行っている。ただ、現時点では全くの想定数字でしかなく、不確定なものを公表することで発生するリスクもあるため難しい。
委員	候補地はこれから決定するのか。例えば廃校利用などはないのか。
事務局	今年度中に候補地を決定予定だが、現時点で廃校が決まっている学校はない。
委員	あくまでも他館の例として、職員数や運営費等を示してはどうか。
事務局	数字が一人歩きすることが懸念されるため、慎重に対応したい。類似施設の事例を参考としてお出しできるかどうかは検討する。
委員	参考事例調査の対象として刈谷市の施設があがっているが、大企業傘下の企業が多い自治体で予算規模が大きそうなので調査対象から抜いてはどうか。山梨県の都留市の施設については興味がある。人口が少ない自治体の博物館なので、参考になるのではないかな。
委員	参考になりそうな施設を実際に見学できたら、イメージが沸くと思う。
委員	建設費が年々高騰しているなかで、計画段階のものの数字を具体的に示すことはむずかしいと思うので、他館の事例として開館年や規模とともに事業費等を示していただけると、よいのではないかな。
委員	そういった資料は、どこまで公表するのか慎重に検討する必要がある。市民の一部から反対の声が出ている状況があり、数字が一人歩きした結果、「整備しなくてよいのではないかな」ということになりかねない。参考事例として市民に公表するにしても、誤解がないように示す方法をきちんと検討しないといけなのではないかな。
委員	反対している人の中には、博物館の整備そのものを反対しているわけではない人も含まれていると思う。ただ、博物館を自分たちがどのように利用できるのか、自分たちにとってどのようなメリットがあるのかなど、具体性が見えていないので「反対」としている状況だと思う。数字を出す際は、具体性がイメージできる情報とあわせて公表する必要がある。
委員	数字を公表する必要があると思うが、どのように公表していくのかは、慎重に議論すべきである。博物館が本当に必要なものであるならば、なおのこと市民

	の理解を得るための方法を考えるべきである。
事務局	予算については避けては通れない内容ではある。ただ、どの段階で、どのように示していくべきかについては、改めてご相談させていただきたい。
委員	市にとってのメリットや、子育て世代以外にとってのメリットなども提示できると、理解が得られるのではないかな。
委員	基本構想において、博物館の活動として「ネットワーク構築と活用」というものがある。連携先としていくつか例が挙げられているが、もう少し広範囲に目を向けてはどうか。たとえば、ＪＡでは支店ごとに、その地域の農業関係の偉人を取り上げて紹介することで農業振興に取り組んでいる。富士宮市には角田桜岳（かくだおうがく）という、幕末の頃に万野原の開墾に寄与した人物がいる。教育関係に限らず、地域振興に寄与するような広がりのあるネットワークを構築するとよいのではないかな。今後の連携・協力が期待される組織・団体等については、事務局には広い視野で拾い上げていただきたい。
委員	「多様な主体」というキーワードがあるように、これまで連携してこなかった方々を掘り起こすことで、博物館への理解も広がるのではないかな。予定されている市民ワークショップなどの機会も活用しながら取り組んで行くとよい。
（３）（仮称）郷土史博物館基本計画策定ワークショップ	
事務局	※資料４「ワークショップ実施計画（案）」について説明
委員	参加者を公募しているとのことだが、参加される方々は博物館の計画に興味や関心の高い方が中心になるのではないかな。そこまで関心の高くない方からはどのように意見をいただく想定かな。
事務局	現状は、博物館建設に関心のある方からの申し込みが中心と思われる。６月２２日時点で５名の申し込みを頂いている。引き続き募集中で、関連団体等にも声がけをしている。
委員	博物館建設に対して、行政が積極的ななかで市民が反対するケースというのは珍しい印象である。博物館建設を市民が要望している自治体もある。難しいかもしれないが、例えばそうした地域の市民の意見を紹介するのも良いのではないかなと思った。
委員	市民からの要望を受けた博物館建設であっても、費用が示されると反対意見が多くなるケースもあるので、一概には言えないと思う。ただ、委員の皆さんのご意見のように、市民への丁寧な説明は必要だと思う。本委員会と事務局とが一緒になって示していけると良い。
（４）参考事例調査対象（案）	
事務局	※資料５「参考事例調査対象（案）」について説明
委員	「博物館」と「資料館」という名称の違いがあるが、法的な違い、例えば、どちらか一方であれば補助額が大きいなどはあるのかな。
委員	名称に関わる規定はない。
事務局	整備費については交付金等の活用を検討しているが、建物を建てるための補助金というのではない。
委員	文化観光推進法に基づき認定を受けた拠点計画や地域計画に関する事業については、文化庁や観光庁による補助金が活用できるケースもある。補助金等の活用については、市の企画戦略課などと相談しながら検討するとよい。 なお、参考事例としては、横浜開港資料館などの展示はよかった。展示手法を凝りすぎると陳腐化が早く、故障の心配もあるので注意が必要である。ただ、ハンズフリーなどコロナ禍を経て、新たに求められるようになった要素もある

	ので、しっかりと検討する必要がある。
委員	タブレット端末などを活用しながら、更新性の高い展示となるとよい。
委員	委員の皆様からも、調査対象候補があれば事務局にご連絡いただきたい。
(5) その他	
① その他のご意見	
委員	収蔵品の多くが、最適とは言えない環境のもとで保管されている。開館まで最短でも 5 年にかかることから、施設が完成するまでの対応についても、議論してはどうか。
事務局	現在は埋蔵文化財センターと芝川会館の 2 階で保管している。どちらの保管場所も遮光をしてはいるが、温湿度管理はできていない。そのあたりの対応についても、検討していきたい。
委員	芝川会館の耐震性に問題はないか。
事務局	1 階部分は浸水リスクがあるか、2 階以上は大丈夫と言われている。建物の耐震性も問題はないと考えている。
委員	万が一、博物館を整備しないことになった場合、収蔵資料が保管されている埋蔵文化財センターの環境整備は必須ということか。
委員	特に埋蔵文化財センターは、資料を保存する環境としては危機的な状況にある。環境の不備に加えて、人員も限られており、資料の保存や管理に手が回らない状況と聞いている。
事務局	資料保存については、燻蒸作業を年 1 回行うなど、できる限りのことに取り組んでいる。
② 次回開催時期	
事務局	8 月を予定している。あらためて日程調整をご相談する。